

構想名：URAによる大学院教育と研究推進を融合させた若手人材育成プラットフォームの構築 ～「地域の中核、世界の人材」を目指すための大学改革～

経営改革ビジョン

大学アライアンスやまなしを基盤として、社会で活躍する博士を育成し、挑戦的な目標を持つ研究者を支援する若手人材育成プラットフォームを構築する。

大学ビジョン

“世界トップレベルの研究拠点”と“様々な分野で活躍するグローバル人材の育成”

- ・地域における高等教育の中核
- ・学際的な教育
- ・大学の強みと特色を生かした 世界トップレベルの研究
- ・地域の持続的発展や産業イノベーション推進

若手人材育成プラットフォーム

URAによる大学院教育と若手研究者の研究推進

社会で活躍する博士の育成とイノベーション創出研究

- ・県立大以外の他大学との連携
- ・企業との交流促進
- ・キャリアパスの拡充
- ・社会に役立つ教育科目
- ・若手教員の人的環境改善



大学アライアンスやまなし

地域連携・学部教育基盤

大学アライアンスやまなし
単独経営 ⇒ 地域連携

- ・共同調達による経費削減
- ・共通教務システム導入
- ・連携開設52科目、のべ3000名履修
- ・教養科目の共通化



- ・県立大との教育連携強化
- ・教養教育の文理相互補完
- ・看護教育の連携

(百万円)

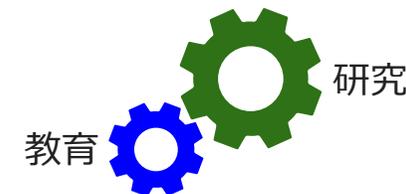


社会で活躍できる博士を育成し、挑戦的な目標をもつ研究者を支援する 若手人材育成プラットフォーム

組織改革

教育高度化と研究力強化を一気通貫で行う**若手人材育成プラットフォーム**の新設

- ・教育推進（学生の支援部署）と研究推進（教員の支援部署）の機能を融合，教育と研究を加速
- ・山梨大学の機動性と柔軟性を生かし，全学域・全専攻から若手人材を集結
- ・地域連携による学外の資源・人材も活用し，教育の高度化と卒業後のキャリアパスを拡充



若手人材育成プラットフォーム（R4年新設）

マネジメント教員

大学院教育
マネジメント室

- ・学生の
修学支援
- ・各分野の
専門家の育成

教育・人材育成
ノウハウ

実学スキル養成講座

大学院生

専門内外のノウハウの習得，
社会で活躍する博士の育成

- ・研究の企画立案～発表，成果の
社会実装方法などを学ぶ
- ・講座の最後に進路希望調査
→OJT希望者は，マネジメント教員
による派遣先とのマッチングと
役員承認を経て博士研究員へ

選抜

講座で得た知識の実践OJT

博士研究員

大学本部から各研究室へ派遣，
派遣先教員と下記いずれかを実施

- ・研究補佐：
実験，外部資金申請，
学生指導，論文作成など
- ・社会実装補佐：
ベンチャー起業，
企業への技術移転など

派遣

大学の研究力強化

若手教員

山梨大学の強み・特色を生かす
研究を加速，外部資金獲得

- ・新たな研究教育分野の形成：
挑戦的な新しい研究の実施，
競争的資金の獲得
- ・技術シーズの社会実装：
フィージビリティスタディ実施，
ベンチャー企業設立，技術移転

URA・社会連
携センター

- ・教員の
研究支援
- ・若手教員の
活躍を推進

研究推進・
社会実装
ノウハウ

教育の高度化と多角化：学外講師・学外交流の場の提供

産学官金 共同研究の実施：地域を生かす研究，成果の社会実装

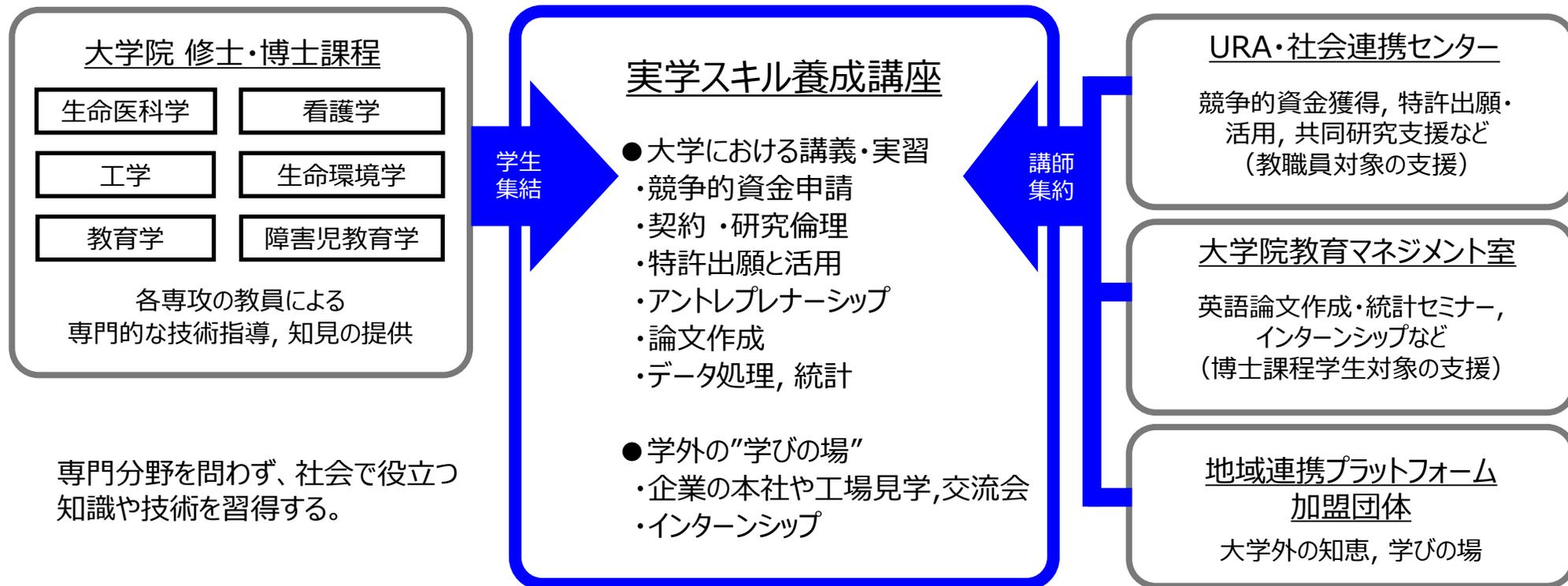
地域連携プラットフォーム（R2年度 国立大学経営改革促進事業で形成した地域連携推進組織）の活用
山梨大学，山梨県，山梨県立大学，山梨学院大学，金融機関，産業界団体など計14団体が加盟・地域産業振興人材育成，高大連携，教育プログラム等を協議

(KPI)

強み・特色がある分野の共同研究契約総額の増加、特許出願数（大学単独出願数）の増加

社会で活躍できる博士を育成

若手人材育成プラットフォームにおける学内外リソースの活用と一元管理による教育の効率化・高度化



(KPI)

博士取得後の就職率改善
博士課程学生のインターン実施数増加
実学スキル養成講座における教育項目増加

挑戦的な目標をもつ若手教員に対し、博士研究員を派遣し研究を強化

研究力強化

R3年まで：大学の強み・特色を生かす研究を推進するため、若手教員を積極的に雇用、物的環境整備を推進してきた。

R4年以降：**若手人材育成プラットフォーム**を通じて若手教員に博士研究員を派遣（人的環境整備）。新規研究と社会実装を加速

若手教員は研究室付きの学生数が少なく、人員不足のため研究員の確保が急務。

ワイン・ブドウ研究

ワインを研究する日本初の研究機関。山梨県はワイン・ぶどう生産量日本一。

ワイナリー技術者の育成・事業化支援、ワイン・ぶどう販売促進

共同研究費：17.3百万円
(R3)

研究テーマ：日本ワインの支援・技術開発、ブドウの木解析



流域環境科学研究

水を中心とした環境研究拠点。山梨県はペットボトル生産量日本一。富士山、南アルプスなど78%が森林。

水源の保全、ペットボトル水の永続的な製造・販売。海外協力・支援。

共同研究費：9.9百万円 (R3)

研究テーマ：水資源。環境DX。感染症モニタリング。



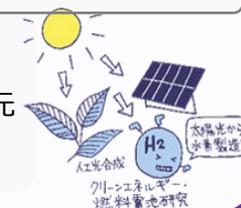
クリーンエネルギー研究

世界を代表するクリーンエネルギー研究拠点。山梨県は日照率日本一。日本最大級の太陽光発電所米倉山で実証実験が盛ん。

ゼロカーボン社会の実現。グリーン水素開発の推進。

共同研究費：59.9百万円 (R3)

研究テーマ：二酸化炭素還元 固体光触媒。固体電池。



脳科学

山梨大学の先端脳科学研究は世界トップレベル！学生の論文も国内外で高く評価されています



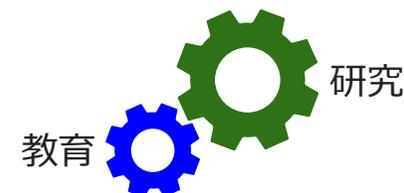
発生工学



地域防災マネジメント研究



クリスタル科学研究



(KPI)

博士研究員の派遣人数増加、本学の強み・特色がある分野の論文採択・発表数増加

本事業終了後における取組の持続性の担保



補助金支援終了後の取り組み

国立大学経営改革促進事業による初期投資により経営基盤を強化

若手人材育成プラットフォームの構築

強みとなる研究分野の強化

山梨大学

経営資源

- 若手人材育成プラットフォーム（育成PF）
 - ・育成PFを通じた人材派遣システム
- 経営改革を通じて捻出する資源
 - ・一般社団法人山梨大学基金からの寄附金
 - ・間接経費の増加、特許使用料収入

支援の強化

外部資金の増加

新たな研究分野の創出

強み・特色を有する研究分野

- ・グリーンエネルギー
- ・流域環境科学
- ・ワイン・ブドウ研究
- ・脳科学
- ・発生工学

'新たな強み・特色'を有する研究分野の創出

寄附

一般社団法人 **山梨大学基金**
(仮称)

出資

特許権実施許諾、共同研究 など

経営サポート、
出資

特許使用料

株式会社
山梨ベンチャーサポート
(仮称)

大学発ベンチャー

ベンチャーA ベンチャーB など

配当

収益還元

助成

助言

寄附金
返礼
・研究者の出張講演
・大学院生との交流会 等

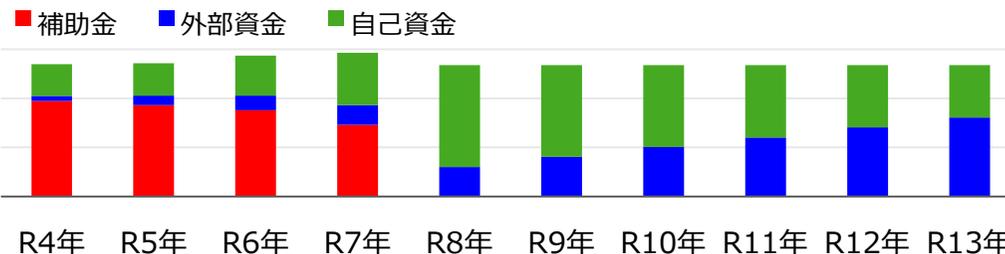
既存の企業等（山梨県内&県外）

公益財団法人 **山梨中銀地方創生基金**

山梨学院大学（私立）経営学部

大学経営改革を通じて獲得した資源を**戦略分野へ再配分**。大学経営改革の好循環を拡大させ、本事業終了後も事業を継続。

事業終了後の資金計画



補助事業終了後、外部資金等の増収により取り組みを継続。
R13年には補助金による効果が補助金額を上回る。